

【水戸財務事務所 経済調査レポート】

# 茨城経済活性化のチャンスとハードル

「新しい茨城」への挑戦には、  
なにが求められるのか

2024年4月5日開催

茨城活性化サロン

(特別回)



財務省 関東財務局 水戸財務事務所

Ministry of Finance / Mito Local Finance Office



梅村知巳 水戸財務事務所長による開会挨拶



野村資本市場研究所 齋藤通雄 研究理事による基調講演



茨城県 横山征成 副知事による取組み紹介



意見交換①：パネリスト3名着席

<当日の写真で振り返る>  
茨城活性化サロン  
(特別回)



意見交換②：常陽産業研究所 尾家啓之 チーフエコノミスト からの発言



意見交換③：参加者からの質問



1 サロン終了後、バックパネル前での記念撮影



事務局を務めた水戸財務事務所職員

## 茨城活性化サロンについて

- ・ 水戸財務事務所が開催する「茨城活性化サロン」は、茨城県における関東財務局の地域貢献の取組みの一環。有識者とともに地域経済の中長期的課題について議論する場としている。
- ・ コロナ禍で中断していたが、約5年ぶりに再開することを受けて、今回は「特別回」として開催規模を拡大。経済団体・地方公共団体・金融機関・大学から56名が参加し、パネリスト3名との意見交換などを行った。

### ～サロン次第～

#### 1. 基調講演

講演者：野村資本市場研究所 研究理事 齋藤 通雄 氏

演 題：茨城経済活性化のチャンスとハードル

#### 2. 茨城県における経済の更なる活性化の取組み（紹介）

説明者：茨城県副知事 横山 征成 氏

内 容：『第2次茨城県総合計画 ～「新しい茨城」への挑戦～』を踏まえた最近の取組み

#### 3. パネリストと参加者による意見交換

議 題：スタートアップ企業の支援、金融経済環境の変化 ほか

- ・ 講演資料などは水戸財務事務所ホームページからご覧ください。  
(掲載URL：<https://lfb.mof.go.jp/kantou/mito/pagekntthp058000020.html>)



## パネリスト紹介

(株)野村資本市場研究所  
齋藤 通雄 研究理事



S62大蔵省採用、R5.11から現職、財務省理財局長、東海財務局長、(株)産業革新機構及び(株)産業革新投資機構取締役CFO、金融庁総務企画局参事官などを歴任

茨城県  
横山 征成 副知事



H5建設省採用、R4.7から現職、内閣府政策統括官(防災担当)付参事官、国土交通省大臣官房参事官(土地政策担当)、国土交通大臣秘書官事務取扱などを歴任

(株)常陽産業研究所  
尾家 啓之 チーフエコノミスト



S56日本銀行入行、日銀ワシントン事務所、政策委員会室、水戸事務所長などを経て、H28.6に常陽銀行に入行し、人事部付で現在に至る。R3.4から茨城キリスト教大学客員教授(金融論・国際金融論)を兼任。

# 茨城経済活性化のチャンスとハードル（基調講演）

野村資本市場研究所 研究理事 齋藤 通雄 氏

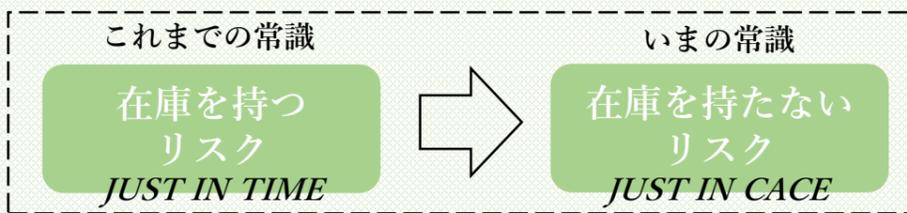
## 視点

最近の経済を取り巻く環境の変化の中で、民間事業者や金融機関がどのようなことに取り組む必要があるのか。また、パブリックセクター（地方公共団体等）は、民間の取組みをどのような形でサポートすべきなのか。

### 経済における近年の環境変化、パラダイム転換

経済の外部からの様々なリスク（e.g.新型コロナウイルス感染症、ロシアのウクライナ侵攻、中東紛争）により、サプライチェーンやグローバル経済の分断、エネルギー・原材料価格高騰といった供給サイドの制約が顕在化しており、「これまで常識とされていたものが通用しなくなっている」。

【図】 企業経営におけるパラダイム転換の例

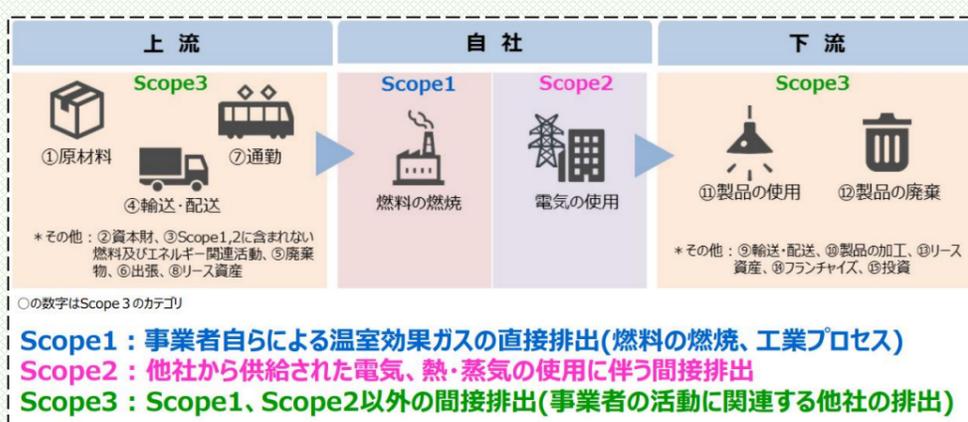


また、脱炭素（GX）やIT・AIの進歩・DXといった変化のなかで、「改善に留まらない、ビジネスモデルの転換が求められている」。

### 地域企業に求められるもの、課題

脱炭素を例とすると、サプライチェーン全体の排出量を捉える“Scope3”という枠組みの中では、中小企業であっても自社の排出量を計測できる体制にしておかないと「サプライチェーンから締め出されてしまうような恐れ」も生じている。

【図】 サプライチェーン排出量の考え方



(出所) 環境省HP

[https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply\\_chain/gvc/estimate.html](https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/estimate.html)

ビジネスの見直しをするためには、まず自社の「コア・コンピタンス（他社に真似できない核となる能力）、パーパス、ミッションが何かを再整理し、社内共有」する取組みが必要。

変革には痛みが伴ったり抵抗があったりするが、「現状維持は相対的に後退を意味する」ことから、それをどう克服して目的を達するかが課題となる。

### スタートアップ企業によくある課題

資金の確保・人材の確保は当然のこと、助言者の確保、とりわけ「ビジネスが上手くいかないときに、どのように方向転換（pivot）するか」を的確にアドバイスしてくれる人を見つけるのが難しい。

企業が成長局面になってくると、後から加わった従業員に「企業が何を指すのか、創業のビジョンを共有できるか」が課題となる。

### 地域金融機関に期待すること

地域企業への仕入先・販売先の紹介では、「ローカルに留まらないマッチング」を視野に。

スタートアップ企業への支援では、預金取扱金融機関であったとしても「口座開設、経理・キャッシュフロー管理のアドバイス」が可能だろう。

### 地域金融機関の課題

日本銀行の利上げは実に17年ぶり。「金利のある世界」というのは、金利が動く世界であり、「市場運用における適切な投資計画あるいはポートフォリオの構築」が求められる。

【図】 金融政策の枠組みの見直し



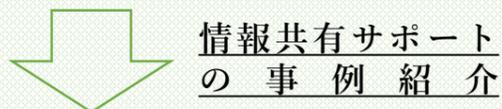
(出所) 月例経済報告等に関する関係閣僚会議 令和6年3月 日銀資料 <https://www5.cao.go.jp/keizai3/getsurei/getsurei-index.html>

環境変化への対応で人材が足りないということであれば、「外部リソースの活用」も必要となってくる。

▶ **パブリックセクターに期待すること**

様々な支援施策をワンストップで紹介・案内し、企業の負担を軽減できるよう、「**情報のハブ**」としての役割を担うことに期待。

サプライチェーンの川上⇄川下で情報がうまく流れないケースでは、「**情報共有のサポート、情報交換の機会を提供**」することも求められる。



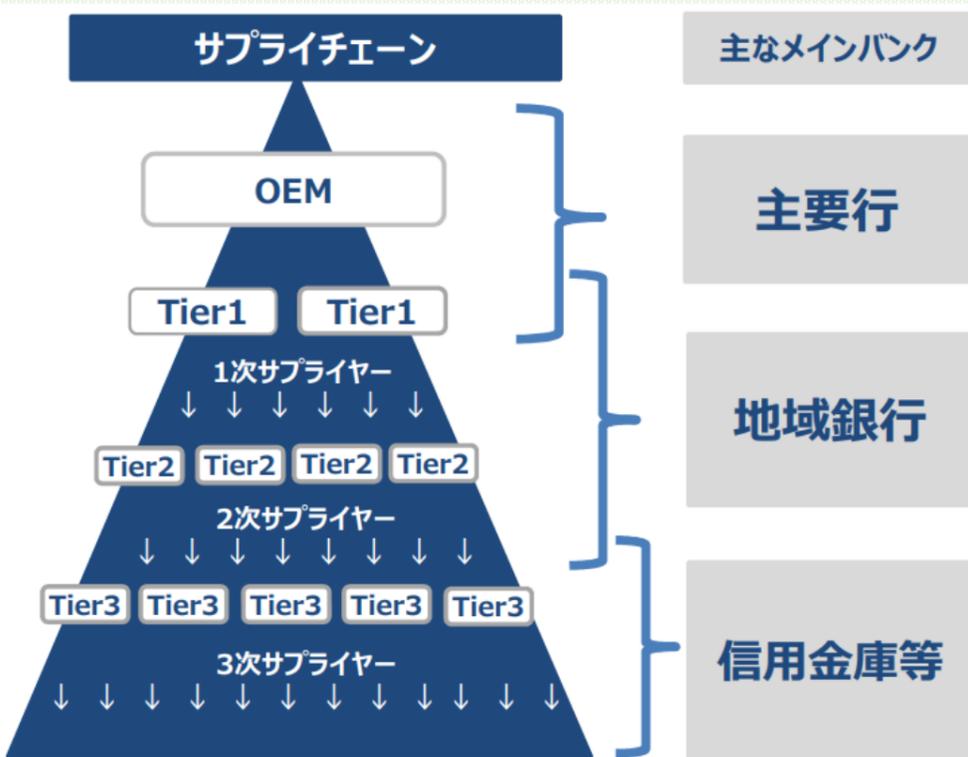
情報共有サポート  
の事例紹介

東海財務局長を務めていた際に、自動車産業内での情報共有を地域金融機関を介して行えるような仕組みづくりを行った経験を紹介。

**自動車産業と金融機関による  
カーボンニュートラルサポート連絡会**

東海地域は我が国における自動車産業の集積地。カーボンニュートラル (CN) 対応のため、①プロダクト (EV化)、②生産プロセス (CO2排出量削減) の両面で大きな転換・変革が求められており、これは我が国経済の持続的成長の観点からも最重要課題の一つ。

こうした中、自動車産業のCN対応がサプライチェーン全体として円滑かつ迅速に進むよう、自動車産業と金融機関の情報共有の場として標記連絡会を発足。



メンバー	OEM、大手Tier1サプライヤー、主要行等、管内地域銀行・信用金庫等、関係機関等
背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車産業はサプライチェーンの裾野が広く、かつ階層化され、それぞれの階層ごとに取引金融機関の業態が異なる。</li> <li>CNを円滑かつ迅速に進めるためには、自動車産業界と金融機関の間で、かつ、階層縦断的な情報共有が不可欠。</li> </ul>
情報共有の具体例	<ul style="list-style-type: none"> <li>OEMやTier1のスケジュール感、求めるレベル感等を金融機関に共有。</li> <li>金融機関からは、OEMやTier1から距離のある中小サプライヤーのCN対応状況や課題を共有。</li> <li>サプライヤー側で階層間の連携に課題が生じた場合に、金融機関側で業態を越えて連携しサポート。</li> </ul>

(出所) 東海財務局作成資料  
[https://lfb.mof.go.jp/tokai/rizai/pagetk\\_cnt\\_20220601001.html](https://lfb.mof.go.jp/tokai/rizai/pagetk_cnt_20220601001.html)

▶ **茨城経済活性化に向けて**

茨城の強みは、まず東京から時間的にも物理的にも近いこと。すなわち「**首都圏という巨大な消費マーケットがすぐそばにある**」。

また、「**物流面での優位性**」がある。高速道路、空港（茨城空港に加え、世界にネットワークのある成田空港にも近接）、全国有数の港湾があるのが特徴的。

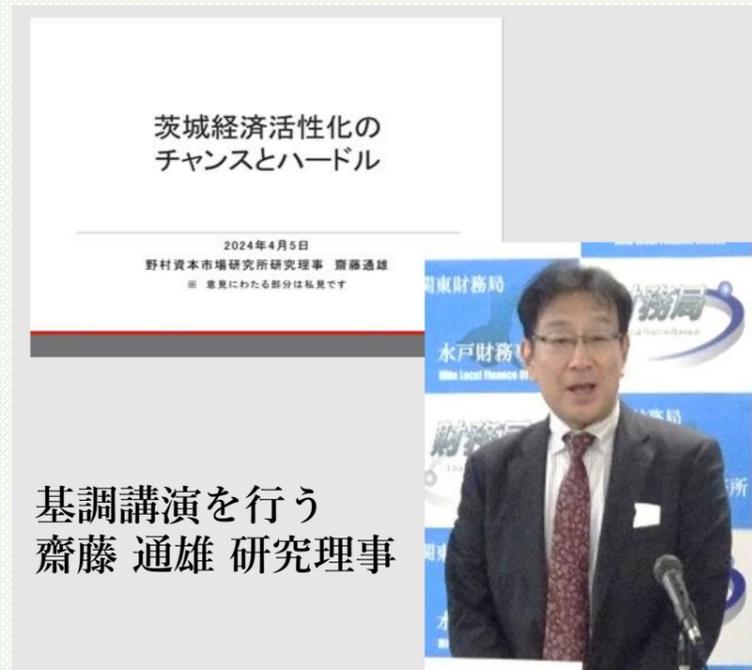
【図】茨城県を取り巻く交通インフラ



(出所) 茨城県「茨城の港の紹介パンフレット」より抜粋し、一部加工  
<https://www.pref.ibaraki.jp/doboku/kowan/minatosyokai.html>

そして「**研究開発拠点 (つくば) があり、製造業が集積している**」ことも強み。

パブリックセクター、産業界、金融界など、「**すべての関係当事者による密接な連携によって茨城が更に発展**」していくことを期待する。



# 茨城県における経済の更なる活性化の取組み

茨城県副知事 横山 征成 氏

## 視点

社会・経済の構造的な変化に対応し、従来の常識や考え方にとらわれず、自ら未来を切り拓いていく必要がある。この「新しい茨城」への挑戦には、なにが求められるのか。県庁の取組み事例の紹介を通じて考える。

### ➤ 第2次茨城県総合計画 ～「新しい茨城」への挑戦～

県民が日本一幸せな県、を目指している。2050年頃の将来像を見据えながら施策の方向性を示しており、そのころには「ハードインフラが完成してくることを見越している」。

令和6年度当初予算では、人手不足や人口減による国内市場縮小の懸念を踏まえて、「外国人材の確保、県産品の輸出、観光振興といったことに力を入れている」。

### ➤ 差別化で利益を上げる産業政策①：企業誘致

「企業誘致は堅調」。県外企業立地件数、工場立地面積ともに全国1位(2022年)。本社機能移転についても、首都圏からの転入は全国トップクラス。

こうした背景から、「県内総生産や県民所得が非常に好調に伸びてきている」。

【図1】 県民経済計算推計



(出所) 県庁作成スライドより抜粋

### ➤ 差別化で利益を上げる産業政策②：第一次産業

第一次産業は全国有数であるが、「次世代に農業を引き継いでいけるか」が課題と認識。“儲かる農林水産業の実現”を目指す。

農産物のトップブランド化で販売単価増、新ブランド創出など、注目を保っている。

【図2】 ブランド化を推進した梨の「恵水」の価格



※都中央卸売市場平均単価 (ただし、恵水はJA全農市場平均単価)

(出所) 県庁作成スライドより抜粋

### ➤ 差別化で利益を上げる産業政策③：観光

有名観光地を抱えている「近隣県との差別化が必要となる」が、コロナ禍でアウトドアに着目して以来、成果を上げてきている。

今年10月～12月には茨城アフターDCを控えており、特に「夜にお金を落としてもらえそうなコンテツ」を作りたい。

### ➤ 差別化で利益を上げる産業政策④：海外市場開拓

茨城は「空港、港湾があるのが非常に大きい」。ここを窓口として海外との交流を強化している。

なかでも「台湾との交流が非常に順調」であり、この4月からは高雄連続チャーター便の運行が実現した。

### ➤ 差別化で利益を上げる産業政策⑤：人材確保

IT人材といった「生産性向上に繋がるような人材の不足感が強い」ことから、リスキング支援・教育機関の改革を行っている。

海外からの多様な人材の活用のため、就職マッチングや日本語教育の強化にも取り組んでいる。

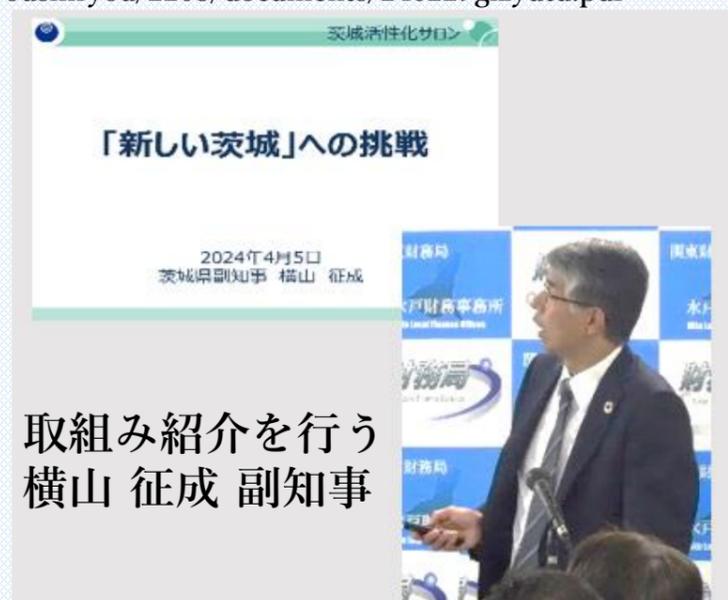
### ➤ 差別化で利益を上げる産業政策⑥：ベンチャー支援

令和6年2月、県経営者協会と連携して「茨城ベンチャーフレンドリー宣言」を発出した。

【図3】 茨城ベンチャーフレンドリー宣言



(出所) 2024年2月29日茨城県技術革新課プレスリリース <https://www.pref.ibaraki.jp/somu/hodo/hodo/pressrelease/hodohappyoushiryou/2203/documents/240229gizyutu.pdf>



取組み紹介を行う  
横山 征成 副知事

# パネリストと参加者による意見交換

## 視点

基調講演(3~4ページ)・取組み紹介(5ページ)を踏まえ、パネリスト3名と参加者による意見交換を実施。スタートアップ支援や金融経済環境の変化について議論が交わされた。

### パネリスト3名 ※経歴等は2ページに記載



野村資本市場研究所  
齋藤 通雄 研究理事



茨城県  
横山 征成 副知事



常陽産業研究所  
尾家 啓之 チーフエコノミスト



(司会進行)  
水戸財務事務所長  
梅村 知巳



✓ それでは最初に、尾家さん。まず、意見交換を開始するにあたり、基調講演の内容を踏まえて茨城経済について解説をいただけますでしょうか。

#### 近年の環境変化について

- 近年の環境変化については、齋藤さんのご指摘の通りです。地域企業においては、どのように変化に適応するか、どのようにビジネスチャンスに変えていくか、が大事だと思っています。
- また、金融機関においては、企業にどう寄り添っていくか、DXやGXを含めた付加価値の高い情報収集と仲介ができるか、が大事だと思っています。

#### 人材確保について

- 今後、人材の確保は企業経営にとって、ますます大きな課題になると考えています。賃金水準はもとより大事ですが、職場としての自社の魅力を高めていくことが求められているのではないのでしょうか。(自己実現ができるか、会社を通じて自分が成長できるのか、やりがいを感じる働きやすい職場環境であるかなど)
- あと、地方で働くことのメリットを生かし、ワークライフバランスを含めたお金では表せない実質的な豊かさを感じてもらうことも大切かと思えます。

#### スタートアップ支援について

- 茨城経済の活性化、高付加価値化にあたって大変重要なテーマだと思います。常陽銀行が属するめぶきフィナンシャルグループでは、ビジョン・アイデアを表彰する「めぶきビジネスアワード」という形でスタートアップ企業を応援しています。また、同銀行子会社を通じてベンチャーキャピタルも行っています。
- ただし、長年支援の強化が図られながらも、日本全体としては他の先進諸国と比べて足りていないところがあると思います。今後は、企業内ベンチャーや自営型といった、新たな形でのスタートアップも検討に値するのではないのでしょうか。

#### 茨城経済について

- 齋藤さんのご発言の通り、茨城の強みは首都圏から近いことによる様々な優位性にあります。産業構造は、全国対比で製造業のウエイトが相対的に高く、端的に申し上げれば、建設機械などが県内経済を引っ張っています。
- ただ、これらの企業はグローバルに展開をしており、外部環境に左右されやすいです。世界経済の動向は経営努力を超える部分ではありますが、しっかり情報収集をしておき、経営に織り込んでいていただきたいと思っています。
- 一方、非製造業ですが、文字どおり、業種、職種は千差万別です。茨城は平地が広範囲に広がり、効率面で弱点となっています。今後はよりコンパクトなまちづくりが必要となってくるのではないかと拝察しています。

#### 金融環境について

- およそ8年にわたるマイナス金利が解除となり、長期金利コントロールも事実上なくなり、短期金利操作による普通の金融政策の入口に立ちました。
- ただし、日銀は「当面は緩和的な金融環境が維持される」としています。つまり、金利が上昇する方向にはあるかもしれないが、実質的な金利は低いまま。物価高などを踏まえて景気に対して金融政策が支援を続けるということです。
- 金利が低い状況で迎える2024年度、日銀短観の結果によると、全国・茨城県ともに企業の設備投資意欲は非常に高いとの結果になっています。



7ページへ進む



✓ 丁寧にご説明いただき、ありがとうございます。それでは次に、横山さん。先ほどの基調講演を受けて、気付きなどがありましたらお聞かせいただけますでしょうか。

- 持っているものを最大限生かした取組みを進めていきたいと、心新たにしました。研究開発拠点つくばの存在、製造業の集積といった強みをご指摘いただいたのを非常に心強く聞いていました。
- スタートアップ企業に対しては、インキュベーション施設など更なるイノベーションに繋がるような場所、ネットワークを作れないかと、地元のつくば市とも連携しながら我々も取り組んでいるところです。
- 製造業については、高い技術力を持っているものの製品化のアイデアが不足している中小企業が多い印象です。アイデアを結びつけるようなレベルのマッチングができれば、産業振興の方向性も見えてくるのではないかと思います。



✓ ありがとうございます。齋藤さん、今のお二人からの発言を踏まえて、地域の活性化について改めてお聞かせいただけますでしょうか。

- 地域を活性化させたいとき、他と同じことをやっても仕方ありません。地域ごと、それぞれの個性があり、歴史的な経緯も含めた特色があって、そこをきちんと踏まえた施策をしていかないと、なかなかその地域の活性化には繋がっていかないと考えています。
- そういう意味で、横山さんによる県の取組み紹介のなかで「差別化」という言葉が使われていた、その着眼点に共感しました。



✓ ありがとうございます。それでは参加者の皆様からもご質問をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。→ 挙手した参加者の中から指名（大学関係者）

- 私自身が大学に勤めている関係もあり、人材確保というのが茨城経済の活性化を長期的に実現するうえで重要な論点になってくると考えています。
- AI（人工知能）といった大きな変化も迎えており、伝統的な教育の方法を変えていく必要性を感じているところです。そこで、ぜひ「人材育成のあり方」「大学教育のあり方」について、何らかのご知見をお聞かせいただきたく、よろしくお願ひいたします。

大学関係者



✓ 人材確保という観点から、ご質問を2点いただきましたが、齋藤さんお答えいただけますでしょうか。

- 「人材育成のあり方」ですが、近年の環境変化の中では特に、仕事をするにあたって英語やITの素養が必須になっています。社会人になる前の教育段階において、ぜひ育てていただければと思います。
- 「大学教育のあり方」ですが、想像力や思考力を伸ばす教育が求められていると思っています。環境変化のなかで、例えばパブリックセクターにおいても単なる“執行”ではなく“企画の意識”が必要です。クリエイティブな仕事はAIではなく人間にしかできません。



✓ 示唆に富んだご回答をいただきありがとうございます。参加者の皆様の中で、他にご質問はありますでしょうか。→ 挙手した参加者の中から指名（金融機関A）

- 齋藤さんにお聞きしたいのですが、ベンチャー企業のグロースのIPO市場が、このところ軟調で、今後どうなっていくのか、見立てはいかがでしょうか。

金融機関A



8ページへ進む



✓ ベンチャーという観点から、ご質問いただきました。齋藤さんお願いいたします。

- 金融環境が変わる中では、やはりスタートアップを中心としたリスクマネーへの流れが難しくなるため、これまで以上にしっかりと支援しなければならない局面にあります。
- 必ずしもIPOではなく、米国でよくあるような大企業への売却によるイグジット、という選択肢もあり、その橋渡しは金融機関が役割を果たせる部分かと思っています。

↓ベンチャーの話題に関連して、  
↓会場の参加者（金融機関B）から発言

- ◎ 地域の発展、そのためにはベンチャー育成が不可欠で、地域金融機関では単なる資金提供に留まらない、様々な事業支援を行っています。会場にお越しの地方公共団体のみなさま、ぜひその辺りを企業の方にお伝えいただければと思います。



金融機関B



✓ みなさま、ご発言ありがとうございました。議論も尽きないところですが、終了時間も迫ってまいりましたので、尾家さん、横山さん、最後に一言よろしいでしょうか。

- 大変有意義なサロンでした。地域活性化のためにやるべきことの処方箋は、もうすでにそこにある、あとは信念を持ってやり続けるのみ。現状維持は後退を意味する、この言葉に尽きます。
- 県庁も、トライアンドエラー、失敗を恐れるな、というマインドで仕事をするようになりました。そういう強い気持ちでやっていますので、みなさま是非アイデアを県庁に向けていただければ幸いです。



- ✓ 私からも最後一言申し上げて、サロンの締めとさせていただきたいと思います。
- ✓ 本日はみなさまの貴重なお時間をいただき、誠にありがとうございました。「財務省」というと、なんとなく声をかけるのもハードルが高く思われがちですが、今日みなさまに感じていただいたとおり、全くそういった事はありません。
- ✓ 一致団結して、茨城を盛り上げていければと思っておりますので、また様々な場面で水戸財務事務所にもお声掛けいただきたく、よろしく願いいたします。
- ✓ このサロンが、茨城の、そして皆様の、さらなる活性化や成長の一助になれば幸いです。本日はありがとうございました。

※ 意見交換での発言内容は、分かりやすくするために、一部抜粋、要約しております。



### 意見交換を行うパネリスト

(左から、齋藤研究理事、横山副知事、尾家チーフエコノミスト)

団 体 名			
1	茨城いすゞ自動車株式会社	14	日本政策金融公庫 水戸支店
2	茨城県	15	野村證券 水戸支店
3	茨城県青色申告会連合会	16	日立市
4	茨城県銀行協会	17	ひたちなか市
5	茨城県信用組合	18	ひたちなか商工会議所
6	茨城県信用保証協会	19	水戸市
7	大洗町	20	水戸商工会議所
8	常陽銀行	21	水戸信用金庫
9	生命保険協会 茨城県協会	22	美浦村
10	筑波銀行	23	守谷市
11	つくばみらい市	24	結城商工会議所
12	土浦商工会議所	25	結城信用金庫
13	常磐大学		

サロン終了後、参加者の方からいただいた声

- 齋藤研究理事の基調講演を通じて、地域金融機関の役割を再認識する良い機会となった。
- （同様に基調講演を通じて）地域社会・地域経済の発展を図ることが大きな使命であることを十分に認識した。「地域企業の更なる発展にはどうすればいいのか」という視点を常にもって業務に取り組んでいきたい。
- 横山副知事が県の施策を俯瞰的に説明されていた。全体像を一度に聞けることはなかなか無いので、貴重な機会であり、大変勉強になった。
- 尾家チーフエコノミストの発言を含め、本サロンから多くの学びを得ることができた。また、マスコミの方々が多かったことも、講演会の注目の高さが感じられた。
- 財務省幹部の方の話聞く機会が無いので、経営者にとっても貴重な機会だったと思う。また、今回のサロンについて、財務省の人が自ら地元の人に声をかけたということが1番大きな効果だと思う。
- 梅村所長ご自身で撮影をした、県内各地のスナップ写真を使用した映像（オープニングムービー）を拝見し、地域に興味関心をもって業務に取り組まれている姿勢が伝わってきた。同様に地域に寄り添った営業を今後も継続して取り組んでいかなければと感じた。
- 意見交換については、時間が足りなかったと感じた。少なくとも、あと2～3は意見・質問が出たのではないか。
- 理念的な話も多くあったので、もう一步踏み込んだ考え・議論ができればと思った。
- 他県の地域活性化の取組みなどの具体例の紹介があると、より気づきがあったのかもしれない。
- 一般企業の経営者も今回のような内容を聞きたいと思う人が多いと思う。今回参加しなかった団体や企業にも広く声をかけることが必要ではないか。

貴重なご意見ありがとうございました。今後の活動に生かしてまいります。

## 取材のあった報道機関（5社）

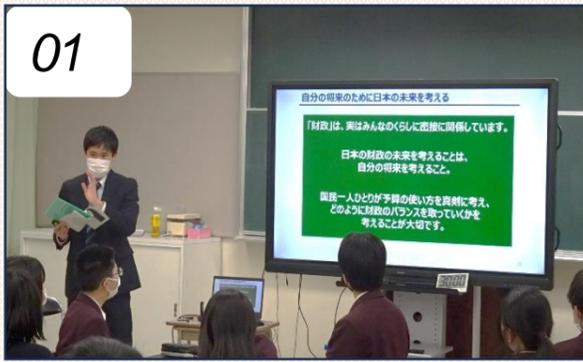
※50音順、令和6年5月20日時点

	報道機関名	リリース
1	茨城新聞社	令和6年4月6日（土） 朝刊 地域（県内総合） 18面
2	日刊工業新聞社 茨城支局	令和6年4月9日（火） 朝刊 26面
3	日本金融通信社	令和6年4月5日（金） ニッキンオンライン
4	日本経済新聞社 水戸支局	令和6年4月6日（土） 朝刊 北関東経済 39面
5	LuckyFM茨城放送	①令和6年5月6日～8日、13日～15日 ②令和6年5月7日～9日、14日～16日 ※それぞれ6回にわたってラジオ放送



サロン終了後の囲み取材の様子

# 水戸財務事務所の地域貢献の取組み事例



01

## 財政教育、金融リテラシー教育

小・中・高校生などに向けて出前授業を行い、財政や金融リテラシーの知識普及に取り組んでいます。



02

## 資産形成セミナー

資産形成の重要性に理解を深めてもらうため、子育て世代向けの資産形成セミナーなどを行っています。



03

## 経済やまちづくり等の講演会

経済団体や自治体などが主催する会議や研修会において、経済やまちづくりをテーマに講演会を実施しています。



04

## 事業者支援の取組み

原材料価格高騰等の影響を受けた事業者に対する支援など、時々の課題について地域金融機関や地域関係者と深度ある対話を行っています。



05

## 国有財産の有効活用

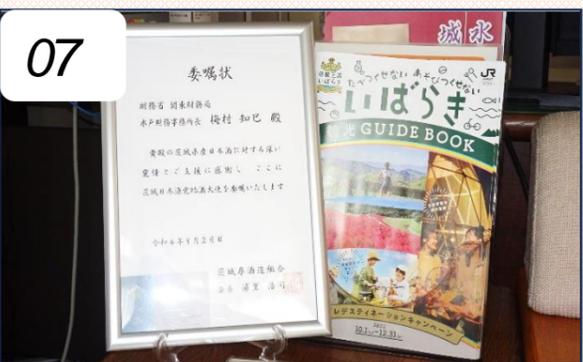
新たな工業団地造成用地として県への売却、資産価値の高い遊休地の企画競争入札など、地元の要望に応じて有効活用を図っています。  
※写真は「国営ひたち海浜公園」（過去の処分活用事例）



06

## 連携協定

水戸市との「地方創生に向けたコンパクトなまちづくりに関する連携協定」など、協力体制を構築しています。



07

## 茨城日本酒党 地酒大使

水戸財務事務所長は、県酒造組合委嘱の「茨城日本酒党 地酒大使」です。R6.4には地酒に関連する経済調査レポートを公表しました。



08

## 20歳未満喫煙防止活動

関係機関からなる20歳未満喫煙防止協議会に参画しており、啓発イベントでのティッシュ配りなどを行っています。

茨城活性化サロン  
(特別回)

主催企画…水戸財務事務所所長 梅村知巳

本書作成…同財務課調査官 山田智浩

事務局…同総務課企画係長 大木あゆみ

同総務課長 熊谷勇人

ほか、関係者及び参加者一同